

東日本大震災(3.11)から学ぶ 港川中学校区

目的

- ①訓練により、地域住民の防災意識・行動力の向上、地域コミュニティづくりを図ることを目指す。
- ②避難時、近隣に呼びかけながら行動し、避難・受入れの訓練を行う。

防災訓練参加者数

- 牧港小学校地域・・・1,414名 (牧港小学校、牧港・牧港ハイツ・市街地住宅・マチナトタウン・伊祖・上野自治会 ほか)
- 港川小学校地域・・・634名 (港川小学校、港川・港川崎原・緑ヶ丘・浦城・伊祖自治会 ほか)
- スタッフ、関係機関・・・63名 (本部、ボランティア、看護師、市社会福祉協議会、港川中学校、消防、市、児童センター、警察 ほか)

合計・・・2,111名

これまで、港川中学校区地域保健福祉センター(社協)で取り組んできたコミュニティソーシャルワーク事業の視点から今後の支援課題を発見するため、災害時にひとりで避難するには不安のある独居高齢者Aさんの避難のようすを密着取材!

※Aさんには、事前に訓練参加と避難記録のご協力をいただいています。

災害想定

AM9:30、久米島沖で
マグニチュード9、震度7の大地震発生!
本島沿岸に大津波警報!
30分で本島沿岸に大津波が到達予想!



Aさん宅に地域相談協力員Bさんと近所に住む中学生C君、Dさんが避難誘導支援に到着。(計4名で避難)



緊急事態!

Aさんには避難時、3日分の薬を携帯するよう事前に声をかけていたが、忘れていたので、Bさんと一緒に自宅へ取りに戻る。

地震発生

9:30

見えてきた課題①

サイレンの音は聞こえるが、放送で何を伝えているのか、何を話しているのが聞き取れない。

いざ!という時にちゃんと聞こえるかな?



9:31



あなたの周りには避難する時に声をかけたほうがいい方がどこ住んでいるかわかるな・・・?

車いすや歩行が困難な方の避難支援して

訓練を終えて見えてきたこと

- ★警報サイレン及び避難放送が聞き取れない
- ★要援護者は、避難開始までに時間がかかる(薬の所持を忘れる、家のカギを探すのが手間取るなど)
- ★車いすや歩行が困難な方の避難付き添いに男手や人数が必要だが、支援者が不足している
- ★地震、津波だけでなく、さまざまな災害や被害の配慮も必要
- ★地域の防災環境の情報が少ない

お問い合わせ / 港川中学校区地域保健福祉センター